

令和2年度

益子町教育委員会活動状況評価報告書

益子町教育委員会

# 令和2年度益子町教育委員会活動状況評価報告

## 1 点検・評価について

### (1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果について報告書を作成し、議会に提出するとともに公表をする。

### (2) 目的

教育委員会の各施策・事業について着実に実施されているか、また、効果的に行われているかについて、教育委員会自ら点検・評価を行うことにより、今後より一層の教育行政を推進するとともに、町民に対し教育行政の説明責任を果たしていくことを目的とする。

### (3) 点検評価の方法

点検・評価の客観性を確保するほか、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、教育委員会活動の自己点検・評価外部検討委員会を開催して、教育委員会の各施策・事業について各担当より説明し、外部評価委員から意見、助言を求める。

#### 外部評価委員

氏 名	所 属 等
渡 邊 重 雄	元町議会議員
瀬 尾 光 洋	P T A代表
手 塚 朗 彦	元小学校長
日下田 欣 一	民生児童委員代表

### (4) 評価方法

評価はAからDで行い、Dは改善策を示す。

- A 目標を大きく上回り優れている。
- B 目標を上回り良好であるが改善の余地がある。
- C 目標上にあり満足であるが改善すべき点がある。
- D 目標を下回り改善を要する。

## 2 点検・評価結果

### ◎評価のまとめ

<b>(1) 教育行政全般</b> ( 評価最頻値 : A )	
<b>ア 特に良好であった内容</b> なし	
<b>イ 特に改善を要する内容</b> なし	<b>改善策</b>
<b>(2) 学校教育</b> ( 評価最頻値 : A )	
<b>ア 特に良好であった内容</b> ①外国語専科教員の配置について ②特別支援対象者の教育相談について ③学校給食における食物アレルギー対応について	
<b>イ 特に改善を要する内容</b> ①奨学資金の未納者対策について	<b>改善策</b> 未納者に対し、引き続き納付の呼びかけを行う。
<b>(3) 生涯学習</b> ( 評価最頻値 : A )	
<b>ア 特に良好であった内容</b> ①日本遺産に伴う案内板等について	
<b>イ 特に改善を要する内容</b> なし	<b>改善策</b>

〔 教育行政全般 〕

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 教育行政基本方針の策定	(1) 新教育基本法を踏まえ教育行政基本方針が策定されている。	A	毎年2月、定例教育委員会で「益子町教育行政基本方針」を策定している。	A	
	(2) 教育行政基本方針を議会に公表している。	A	2月の全員協議会において説明している。		
	(3) 毎年度教育基本方針の内容を見直し、その成果を評価している。	A	成果指標のとおり目標が達成された。		
2 定例教育委員会	(1) 定例教育委員会開催の告知をしている。	A	町内3か所の告示板で告示を行うほか、広報ましこ「お知らせ版」にて告知している。	A	
	(2) 会議では適切な意見交換が行われている。	A	教育長の進行により各委員から積極的に意見が出されている。		
	(3) 定例教育委員会には全員の教育委員が出席している。	A	定例教育委員会時に日程を調整し、全員出席している。		
	(4) 会議録が整理されている。	A	会議録を整備している。		
3 教育委員会の評価と結果公表	(1) 教育委員会の活動について評価を実施している。	A	平成20年度から活動状況点検と評価を実施している。	A	
	(2) 評価結果を公表している。	A	毎年議会に報告するほか、益子町HP上において公表している。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
4 教育委員が出席する行事	(1) 委員が出席する行事は、委員間で協議し、共通理解をしている。	A	定例教育委員会において、予定表に基づき行事日程を協議・理解している。	A	
	(2) 教育委員が出席する行事は関係委員が出席している。	A	欠席とならないよう、日程の調整をしている。		
5 教育委員研修	(1) 教育委員研修は芳賀管内で連携し実施している。	-	新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった。	A	
	(2) 研修に教育委員が積極的に参加している。	A	研修内容等を事前に検討し参加している。		

〔学校教育〕

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
6 小学校外国語活動(英語)	(1) 児童の外国語活動におけるコミュニケーション能力の素地を育成している。	A	児童アンケートより「外国語活動(英語)の授業は好きである:79.4%」「外国語活動(英語)の授業に進んで参加している:88.9%」「外国語活動(英語)の授業で、先生や友達とのコミュニケーションは楽しい:84.0%」「外国語活動(英語)の授業中、先生や友だちに英語を使って自分の考えを伝えることができる:77.6%」の肯定的な回答率を得た。児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。	A	○外国語専科教員は専門性を活かした授業を行っている。
	(2) 授業研究会や外国語活動研修会、授業力アップ講座を行い、授業改善への取組を推進している。	A	令和2年度より、小学校3年生以上の外国語科活動及び外国語科の授業については、外国語専科教員がALTと実施している。それに伴い、対象を外国語専科教員等とした授業研究会及び研修会を実施し、指導力の向上を図った。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
7 魅力ある学校づくり	(1) 児童生徒指導部会や研修会等を行い、小中学校が連携し、不登校やいじめを未然に防ぐことをねらいとした取組を推進している。	A	年2回hyper-QU調査を実施し、指導者が帰属意識の高い学級づくりを行い、児童生徒一人一人の自己有用感を高められた。hyper-QU調査結果から、学級生活に満足している割合が、全学年で平均を上回る良好な結果を得られた。	A	○hyper-QU調査は2回実施することにより、効果的な活用ができるので、ぜひ継続してほしい。
	(2) 全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査、益子町学力学習状況調査を実施し、その結果を分析し、児童生徒の学力向上に向けて、組織的に取り組んでいる。	A	各学校の学力向上改善プランの作成を支援し、学習指導に関わる検証改善サイクルを確実に運用させ、児童生徒一人一人の学力や教師の指導力の向上が図れた。全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症のため実施しなかった。益子町学力学習状況調査では、16教科中14教科で全国平均を超える良好な結果が得られた。		
	(3) 教育課程特例校制度における年間指導計画・単元計画を作成し、専科教員、学級担任主導で毎時間ALTとのチームティーチングで外国語活動を実施している。	A	益子町小学校外国語活動推進委員会を設置し、年間指導計画の改善を行い。授業を実施することができた。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
8 特別支援教育	(1) 対象の園児・児童生徒の様子を観察し、保護者と教育相談を行っている。	A	平成29年度から開始した各園への巡回相談(年長児対象)を令和2年度も引き続き実施。対象となる子どもの詳細な現状把握ができた。また臨床心理士・園・学校・保健センターとの情報共有をより密に行うことができ、早期から保護者との教育相談に取り組むことができた。	A	○特別支援の教育相談については、専門的な見立てが必要なので、臨床心理士や保健センターとの情報共有を継続して行ってほしい。
	(2) 能力に見合った適切な教育機関への就学指導を行っている。	A	対象となる子どもの保護者に対し、知能発達検査等を実施し、客観指標をもとに就学相談を複数回実施した。指標の採用や資料等により対象児童への指導方針も明確にすることができた。		
	(3) 教育支援委員会を適宜開催している。	A	例年、年2回開催していた各小中の担当者会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず、書面での情報交換を行った。入級判定基準の確認や会議資料・個別の指導計画資料の作成方法等について情報交換・共有を行った上で、教育支援委員会を開催した。結果、より適切に会議を開催することができた。		



項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
9 備品管理	(1) 学校備品台帳のデータベース化を推進している。	A	新規購入物品についてデータ入力を行った。	A	
	(2) 既存台帳の整理を随時行っている。	A	既存台帳内容の確認を学校ごとに実施し、事務局保管台帳の加除を行った。		
10 生活適応指導教室の運営	(1) 学校生活適応指導教室の運営が円滑に行われている。	A	室長を中心に通級児童生徒に対してきめ細やかな指導助言に努め、充実した運営を行った。	A	▲生活適応指導教室に、通級できない児童生徒への対応が課題である。
	(2) 「学校に行けない、行かない」子ども達に居場所を提供し、個別学習、相談や体験活動等を通し、社会に出て行くための基礎づくりをしている。	A	子ども達の実態に応じた個別学習の場を設定したり、調理実習や校外学習等を実施したりすることができた。また、学校や教育委員会と連携を図りながら、子ども達や保護者と教育相談を行った。		
11 学校施設工事	(1) 教員等学校現場の意向を反映している。	A	設計の段階から、学校と綿密に連携を図り、意見を反映させた。	A	
	(2) 事業に必要な財源の確保がされている。	A	国の補助金を活用した。		
	(3) 計画通りの工期に従い実施されている。	A	計画どおり実施した。		
	(4) 工事に伴う生徒の安全確保がなされている。	A	隔週開催している工事打合せの中で、生徒の安全確保に努めた。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
12 学校施設維持管理	(1) 学校の実態を十分に把握し、適切に学校施設の維持管理を行っている。	A	学校の実態を把握した上で、緊急性の高いものから順次修繕を行った。	A	
13 中学生海外派遣	(1) 中学生海外派遣事業実施委員会を開催し、派遣先やカリキュラムの検討を行っている。	A	実施委員会で検討を行ったが新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった。代替案としてオンライン交流を調整し、実施することができた。	A	▲魅力的かつ効果的な事業なので、新型コロナウイルス感染が収束したら、ぜひ再開してほしい。
	(2) 派遣する中学生の事前指導・事後指導が円滑に行われている。	—	新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった。		
	(3) 派遣中の情報収集、保護者への情報提供が適切に行われている。	—	新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった。		
14 奨学資金貸与	(1) 経済的に修学が困難かつ、修学の意欲のある者に奨学資金貸与制度の周知を行っている。	A	町内中学、郡内高校に申請書を配布するとともに、広報紙で制度の周知を行った。	B	▲未納者に対して、引き続き適切な対応をお願いしたい。
	(2) 奨学資金の未納者に対する追跡調査を行い、奨学資金の適正な管理を行っている。	C	引き続き、催告書の郵送や電話、戸別訪問を継続して行っている。		
15 スクールバス運行	(1) スクールバスを円滑に運行している。	A	学校からの情報提供を得て円滑に運行できた。	A	

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
16 学校給食	(1) 委託業者との連携を密にし、安全・安心な給食の提供を行っている。	A	毎日、委託業者と打合せを行い、情報共有や共通認識をもつことができ、円滑に給食を提供できた。また、安全衛生点検により安全・安心な現場をつくることができた。	A	○学校給食における食物アレルギー対応については、保護者と事前相談を実施することで適切に対応している。
	(2) 地元食材を活用し地産地消の取り組みを行っている。	A	J Aと打合せをし、安全・安心な地元食材の優先的な使用に努めた。		
	(3) アレルギーに配慮した給食の提供を行っている。	A	「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、食物アレルギーを持つ児童生徒に対し面談等を行い、除去食の提供を適切に行った。		
	(4) 給食費の未納対策を行っている。	B	学校と連携し、未納解消に努めた。		

〔生涯学習〕

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
17 生涯学習並びに社会教育の充実	(1) いきいき講座の利用促進・自主教室の充実を図っている。	A	いきいき講座は町民編69講座、行政編77講座を開設。自主教室は60教室開催し、生涯学習の充実を図った。	A	▲実質的に活動ができていない地区もあるので、地区ぐるみ活動等については、今後も継続が望まれる。
	(2) 学校支援ボランティアやコーディネーター交流会等を通し、学社連携・融合事業の推進を図っている。	A	広報誌を作成し活動をPRした。		
	(3) 青少年教育並びに成人教育の推進を図っている。	A	青少年健全育成、女性団体の支援を行っている。また、青少年から高齢者まで各年代ごとに講座開設を行った。		
	(4) 地区ぐるみ活動等、地域コミュニティ活動の充実を図っている。	B	生涯学習推進協議会と連携した地域コミュニティの醸成を図った。		
	(5) 町民と協働し花で包まれたまちづくりを行っている。	B	大規模花畑や花いっぱいコンクール等を開催し、花で包まれたまちづくりを行った。		
	(6) 町民大学を開設し、まちづくりに関する講座の実施及びアクションプランを作成する。	A	16講座を実施した。8つの班がそれぞれアクションプランを作成した。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
17 生涯学習並びに社会教育の充実	(7) 図書の充実と図書ボランティアグループ支援を行い、図書活動の推進を図っている。	A	新刊本や児童書購入により、図書の充実を図るとともに、月ごとに新刊本の情報を掲示し、利用者へお知らせした。また、ボランティアと協力連携し利用しやすい図書室づくりを行った。		
18 文化関係事業充実	(1) 歴史文化基本構想や日本遺産を活用した地域活性化事業を実施する。	A	歴史文化基本構想推進委員会を開催し、文化財の保存と活用を推進することができたほか、文化庁の補助金を利用し、案内板等を整備することができた。また、ましこ検定や世間遺産認定を実施し、身近な文化財の再認識をすることができた。さらに、笠間市と共同申請した「かさましこ～兄弟産地が紡ぐ焼き物語～」が日本遺産に認定となったため、活性化協議会を立ち上げ、文化庁の補助金を利用し、地域活性化につなげる取り組みを行うことができた。	A	○日本遺産の案内板(標柱)については、日本遺産のロゴマークや構成文化財の名称が記載されており、一目見ただけでわかるのでとても良い。

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
18 文化関係事業充実	(2) 芸術・文化の振興を図っている。	B	文化協会等文化団体の指導育成、芳賀地方芸術祭の実施運営を行った。音楽祭は新型コロナウイルスの影響もあり、出演者が少なかった。また、毎年開催している文化祭やアマチュアバンドコンサート・若手音楽家支援コンサートは、コロナ禍のため中止となってしまった。		
	(3) 文化財の保護に努めている。	A	文化財保存事業の推進、文化財指定手続きの継続、文化財保護意識の啓発に努めた。詳細遺跡分布地図作成に向けて委員会を立ち上げ調査を開始した。		
	(4) 町民会館の管理運営及び受付業務を適切に実施している。	A	利用者の安全確保、修繕工事の円滑な進捗、施設、機材のメンテナンスの徹底、利用者への適切な説明と対応を行った。		
19 社会体育事業充実	(1) 総合型地域スポーツクラブの育成支援を図っている。	A	クラブと連携を図り、クラブのPRと事業の適正な執行に努めた。	A	▲コロナ禍で残念ながら、はが路ふれあいマラソンは評価が高い大会なので、早く再開できればと思う。
	(2) 少年スポーツ教室を開催し、心身の向上を図っている。	B	毎回11月から3月の期間で8種目を開催している。11月から剣道教室と野球教室を予定していたため、講師の方々と日程等の調整を進めていたが、コロナ禍で7/28に8種目すべて開催中止決定とした。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
19 社会体育事業充実	(3) 体育施設の整備、適切な管理運営を図っている。	A	南運動公園及び北公園の施設修繕、遊具点検及び修繕、体育施設の照明やロッカー、シャッター、給水管など、利用者が安全そして快適に使用できるよう努めた。また、公園を管理する器具について点検及び修繕を施し、効率よく作業ができるようにした。		
	(4) スポーツ団体の育成・支援を図っている。	A	スポーツ少年団、体育協会等の団体へ活動支援を行った。		
	(5) はが路ふれあいマラソンを開催を通し、地域住民のスポーツ参加意欲の向上と芳賀郡市のPRを図っている。	B	毎年12月の第3日曜日に開催している。コロナ対策の検討や国内大会の状況を注視しながらマラソン事務局と進めていたが、8/4実行委員会にて大会中止が決定となった。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
20 国体推進事業	(1) 実行委員会等の会議の開催や、関係機関(共催市町、競技団体等)との連絡調整を行い、国体開催の成功に向けて準備を進める。	A	町実行委員会においては、総会(書面決議)及び常任委員会を開催した。また、共催市町及び競技団体との打ち合わせを持ち、業務内容の確認や役割分担などを調整することができた。	A	
	(2) 選手が最高のパフォーマンスで力が発揮できるように、競技会場の施設整備を行っている。	A	軟式野球会場の北公園野球場に、BS0表示板を設置した。また、サッカー会場の南運動公園は、芝張り替え工事に伴う実施設計を行い、現状に合った適正な芝の選定を行った。		
	(3) 大会開催の機運を高めるため、広報啓発活動を行っている。	A	効果的なPR方法について検討を重ねるとともに、広報啓発用物品の作成や国体応援隊の募集、ホームページの開設等を行った。		